

ひょうたけいけ

桜台小 学校だより
令和4年10月5日
第32号



朝晩は寒さを感じるようになってきたものの、日中は20℃を超える陽気で、子どもたちは元気に運動場で遊んでいます。中・高学年の子どもたちは、最近ドッジボールやサッカーなどをして同じ学級、同じ学年のなかまと集団遊びをしている姿を見かけるようになりました。今年度も半分か過ぎ、学級や学年集団としてのなかま意識が出てきているのでしょうか。学校生活では、さまざまな活動、行事等を通して、少しずつ子どもたちの成長を感じる場面が見受けられます。



11月2日(水)には、本校の運動会が控えています。現在は、四日市市においても感染者数が減少傾向にあり、今年度は、従来形式の運動会に近づけた形で開催ができそうです。感染症拡大防止の観点から、保護者の皆様の参観人数については、これまで通り制限する必要がありますが、本校としては、可能な範囲の中で子どもたちのがんばっている姿を見ていただきたいと思います。

10月に入り、本格的に運動会の練習が始まっています。まだまだ日中は暑い日もありますので、熱中症対策のために子どもたちが十分な水分補給ができるよう、いつもより多めに水分の準備をよろしくお願ひします。

※学校ホームページ「桜台っ子ニュース」では、日々の学校の様子をカラーで紹介しています。



5年生が自然教室に行ってきました。

10月3日(月)、4日(火)、5年生は四日市市少年自然の家へ1泊2日の自然教室に行ってきました。今年度は2年ぶりに宿泊を伴っての実施となりました。1日目は、入所式⇒ミニウォークラリー⇒カヤック体験⇒キャンプファイヤー⇒ナイトウォーク、2日目は、朝の散策・朝のつどい⇒空き缶切り・火起こし体験⇒昼食調理(炊事場：昼食・片付け)⇒退所式の順で活動をしてきました。今回はその一部を紹介したいと思います(裏面に続きます)。

【1日目】<入所式>

朝からバス2台で四日市市少年自然の家へと向かい、最初に入所式を行いました。桜台小学校の校歌に合わせて校旗の掲揚をし、所長さんからのあいさつ、校長からのあいさつ、5年生代表からのあいさつがありました。

四日市市少年自然の家では「挑戦する心」「感動する心」「発見する心」の3つが、活動するためのキーワードとなっています。校長からは、「この3つの心を意識して今回の活動が行えるように」と、子どもたちに話をしました。



代表委員の進行で入所式を終えると、「ふれあいの森」でのミニウォークラリーへと向かいました。

<ミニウォークラリー(1番目)>

少し小雨まじりの天候となりましたが、「ふれあいの森」を使っでのミニウォークラリーを行いました。展望台ややまなみの広場、ふれあい広場など5つの場所でチェックポイントが設けられ、それぞれ担当の先生から問題を出すことになっていました。展望台では私が問題を出す担当だったのですが、後の振り返りで校長先生の問題が一番難しかったと言われてしまいました。あれだけニュースになっていたのに、「アントニオ猪木」さんを知らないとは。簡単な問題を出したと思ったのに、ちょっと驚きました。展望台からの分かれ道を間違え、ショートカットをして下ったグループもありましたが、こんなこともいい経験になったと思います。



<カヤック体験(2番目)>

午後からはカヤック体験をしました。濡れてもいいように服装を準備して、だいもん池へと向かいました。カヤックに乗る前に、ライフジャケットを身に付け、パドルをまっすぐに立てて全員で記念撮影をしました。その後、指導員の方から乗船時の注意を聞き、2人1組でカヤックに乗り込みました。指導員の方からは、右に曲がった

り、左に曲がったりする方法や後ろ漕ぎについても教えてもらいました。パドルを上手に操作してどんどん前に進んでいるペアもありました。決められた時間の中で何回転回できるかを競争したり、池の中を泳いでいるコイを見つけようと移動したり、楽しそうにカヤックを乗り進めていました。最後にはカヤックを使ってみんなで鬼ごっこをして楽しみました。天候も良く、暖かかったので、みんな楽しそうにカヤック体験の時間を過ごしていました。



<キャンプファイヤー（3番目）>
 夜は「だいもん池広場」でキャンプファイヤーを行いました。最初に迎火（むかえび）のつどいが行われました。火の使いが入場し、営火長に火を移し、営火長から各点火係に分火しました。「知恵の火」「やさしさの火」「友情の火」といった誓いの言葉を全員で言った後、薪に点火し、キャンプファイヤーが始まりました。係の子たちが「言うこと一緒やること一緒」「バースデーチェーン」「山手線ゲーム」等を進行して楽しませてくれました。

<ナイトウォーク（4番目）>

四日市市少年自然の家から全員でそろって、「はぎのこみち」を歩き、展望台へと向かいました。夜だったので、展望台から東の方角、四日市市街を見渡した時にはネオンがくっきりと浮かんでとってもきれいでした。山道を歩いてヒルにかまれた子も少しいましたが、秋の虫の音がしっかりと聞こえ、風情（ふぜい）のある夜の時間を愉（たの）しむことができました。

【2日目】

<空き缶あけ、火起こし体験（5番目）>

災害時に対応できるように、アルミ缶の飲み口部分を缶切りであけ、あき缶の中にお米を入れ、お米を研ぎました。そしてあき缶にお米を水と一緒に入れて、アルミホイルできっちリフタをし、準備をしました。



最近では缶切りを使う機会がないのか、なかなか切り進めることができない子もたくさんいました。体験して身に付けることの大切さを改めて感じました。

その後、古代から続く火起こし道具の「まいぎり」を使って火起こし体験をしました。麻ひもをほぐして板に押し付けつつ「まいぎり」を回転させました。板から外れないように「きゅっきゅっ」という音が出るように回し、先端から煙が出始め、火種ができたなら素早く火口に移すのですが、なかなかうまくいかないグループが多かったです。もう一つは、現代の火打ち石と呼ばれるファイヤースターターを使って火を起こす方法で、麻ひもをほぐし、摩擦による火花で火を起こすのですが、なかなか火がつかず、多くのグループが苦勞していました。火を起こしたグループは、うちわであおいで燃え広がらせていましたが、灰をかぶったり煙が目に入ったりして大変な思いをしている子もいました。



<昼食調理（6番目）>

火起こしをしたかまどには水を入れたなべをかけ、各自が持ってきたレトルト食品を温めるのに使いました。なべはクレンザーを使ってコーティングをし、取っ手の部分にはアルミホイルをまくことで、すす汚れを防ぐ対策をしました。防災食を意識し、準備したあき缶をかまどにかけ、ご飯を炊きました。「こんなふうにご飯が炊けるのか」と、驚いている様子の子もたくさんいました。昼食が終わると、使ったなべのすすをとって洗い、返すときに四日市市少年自然の家の職員の方に点検してもらいました。しっかりと磨かないと合格がもらえません。合格をもらったグループは「やったあ」と喜びを分かち合っていました。やり直しのグループは、どこがダメなのかを教えてもらって、磨き直して再度点検してもらっていました。



<退所式>

退所式では、2日間の振り返りをしました。退所式後には、玄関付近で全員そろって記念写真を撮りました。

この1泊2日の自然教室を通し、5年生は、自然教室で大切な「挑戦する心」「感動する心」「発見する心」の3つに加え、『なかまを大切に作る心』を体現することができたのではないのでしょうか。学級のなかまのことを知り、お互いの絆を深めることにつながった充実した時間となりました。



(文責 北住 昌文)